

4月19日に、本校3年生122名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果・分析がまとめました。本調査は、国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（生徒質問紙）も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校生徒の状況をお伝えします。

総合結果(国語・数学・理科)

国語は全国平均をやや上回り、数学は下回りました。理科はほぼ全国平均並みの結果となりました。

書く問題においては、「どの教科においても、「最後まで書こうと努力した」と回答した生徒が全国平均よりも大きく上回りました。最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢や粘り強さが確実に育まれていると考えられます。

	国語	数学	理科
京都市	69	53	50
京都府	70	50	49
全国	69	51.4	49.3

国語科より

書くことの観点では、「場面と描写などを結びつけて話の展開を取り上げて書く」や「根拠を明確に自分の考えを書く」という設問はよくできていました。特に記述式の形式においては、全国平均よりも9ポイント上回りました。日頃から授業の振り返りや授業課題において生徒自身が粘り強く自分の言葉で表現しようとする成果の表れだと考えられます。また、話すことの観点では、「スピーチにおいて自分の考えを分かりやすく伝える工夫」を問う問題で全国平均よりも高い正答率が見られました。授業の中で自分の考えを他者に伝える場面の中で培われたものだと考えられます。このような日頃の継続した取り組みが確実な力につながっていることを自信につなげてほしいと思います。

一方で、知識・技能を問う問題の中には課題が見られる問題もありました。特に「文脈に即して漢字を正しく書く」問題では全国平均を大きく下回りました。具体的には「よろこんで（喜んで）」（ひらがなを漢字に直す）という問題において25%の誤答が見られました。昨今、授業等において日常的にタブレットを使う機会が増えており、活字を書く習慣が失われつつあります。しかし常用漢字は日常生活においても必要な能力であることを鑑み、普段の生活から漢字を用いることを大切に指導してまいります。

数学科より

各領域で見ていくと、【数と式】は全国平均をやや下回りましたが、素因数分解をする問題は平均を大きく上回る結果になりました。また【図形】と【関数】の分野では、全国平均を下回り、特に図形の証明の問題や関数のある事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する記述問題に課題が見られました。この3つの分野に関して、3年間を通して学習する内容なので、再度定着が図れるよう指導してまいります。その一方で、【データの活用】に関しては、全国平均を上回る結果となりました。

また、評価の観点別に見ていくと、【知識・技能】と【思考・判断・表現】ともに全国平均を下回る結果となりましたが、すべての問題を通しての無解答の問題は全国平均を大きく下回りました。このことから、「なんとなく解けそう」と書いてみたものの基本となる知識や技能が曖昧になっているため誤答になってしまい、知識技能を利用した思考・判断・表現の問題も得点に結びつかない状況になっていると考えられます。

ただし、正答数の分布に関しては中央値が1問の差しかなく、一人一人の正答数が1問増えると、全国平均に並ぶような結果になったため、再度基本的な問題から振り返り、定着を図り、生徒の学力向上に努めます。

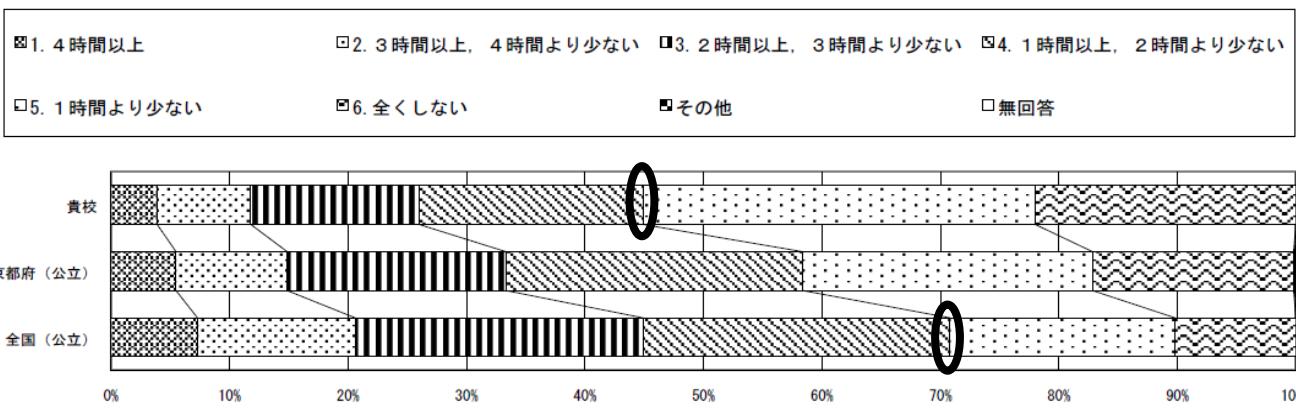
理科より

領域ごとに見てみると「粒子」を柱とする領域の出題では平均よりも 3 ポイント上回っていましたが、「地球」を柱とする領域の出題では平均よりも 3 ポイント下回っていました。中でも気象データを科学的に探究した考察の妥当性に関する出題、大地の変動に関する考察の妥当性に関する出題に関して平均より 4 ポイント下回っていました。これまでの授業の中でも実験結果から考察を考える場面がありましたが、結果と考察を混合して考えてしまい、文章としてなかなか書き表せないということがありました。考察を穴埋め方式で完成させる課題を設定するなど、改善を図ります。

また、問題形式で見てみると短答式の出題に関しては 5 ポイント上回っている一方で、記述式の出題に関しては 1.5 ポイント下回っていました。やはり、知識や思考を記述することに課題が見られるため、普段の授業から記述する課題を設定したり、定期テストの出題形式を工夫したりすることで、生徒の学力向上に努めます。

生徒質問紙調査から

- ・学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（塾、家庭教師、インターネット活用の学習時間も含む。）



本校と全国平均を比較すると、1 時間以上の家庭での学習時間において約 25% の開きがありました。これは平日の家庭学習時間においても同じような結果となりました。学習内容の定着には学校での授業内容の理解と家庭での繰り返しの学習が大切だと考えます。今後は宿題において学習内容の定着に必要なものを精選しつつも適切に課しながら、学習内容の定着につなげたいと考えます。

また、2 年前より導入されたタブレットを用いた学習に関しては、使用頻度や効果的な学習等の質問において、いずれも高い回答が得られました。これに関しては 2 年間の積極的な活用及び、生徒が実際に活用するうえでの実感が伴ったものだと言えます。まだまだ試行錯誤の部分はありますが、今後もより効果的な活用を摸索しながら推進してまいります。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学力は着実に伸びてきていると同時に、さらなる成長が見込めることが分かりました。ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。